

## 1 はじめに

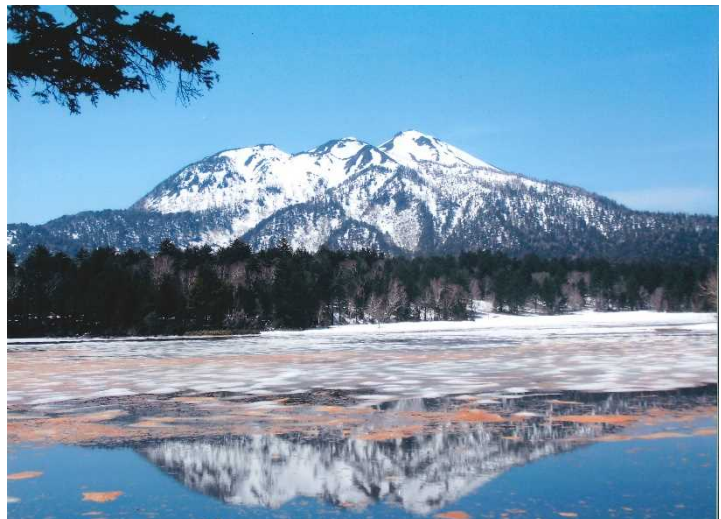
会津森林管理署南会津支署は南会津町南郷地区（旧南郷村大字山口）にあり、南会津郡のうち阿賀川上流及び伊南川流域に位置する2町1村（南会津町のうち平成18年3月に合併する前の旧田島町を除く旧南郷村、旧伊南村、旧館岩村の3村・只見町・檜枝岐村）に所在する約11万haの国有林を管理しています。平成11年の組織再編により南会津支署に名称が変更となる前は山口営林署と称していましたので、地元を含めてまだこちらの方に馴染みがある方も沢山おられるのではないのでしょうか。

管内の国有林は広大な天然林を有し、豪雪を有効に活用した日本屈指の発電量を誇る只見川ダム群の重要な水源域として、また福島県のみならず新潟県の水源地としても重要な役割をになっています。これら緑豊かな森林の大部分は、奥会津森林生態系保護地域及び会津山地緑の回廊に設定しており、急激な環境の変化がおきないように管理しています。そのほか群馬・栃木・新潟の3県に接する南部地域は尾瀬国立公園に、新潟県に接する北部地域は越後三山只見国定公園区域に指定され、さらに只見町全域及び檜枝岐村の一部（袖沢右岸域）は、豪雪が創り出す「雪食地形」と「モザイク植生」に加え、希少動植物の宝庫となっておりユネスコエコパークにも登録されています。

## 2 尾瀬国立公園

尾瀬国立公園内には日本百名山の東北地方最高峰の燧ヶ岳（ひうちがたけ：標高2,356m）及び会津駒ヶ岳（2,133m）のほか、山頂に台地状の湿原が広がる田代山などの名峰が名を連ね、例年ですと梅雨明けから夏山の登山客で賑わうところですが、昨年は新型コロナウイルス感染症の影響もあり尾瀬の山開きも縮小開催、沼山峠へのシャトルバス運行も例年より遅れての営業開始となるなど、旅行者の姿もほとんど見かけない静かな夏山シーズンとなってしまいました。

私的には地元自治体が行う各地の山開きが軒並み中止となるなか、燧ヶ岳についてはその山麓を一周、会津駒ヶ岳にあっては登頂する機会があり、それぞれ登山・周遊の拠点となるところに建っている“山小屋”がとても新鮮に感じられたところです。九州出身者の私からすると登山といえば日帰りが当たり前のイメージだったのですが、当地の山々は懐がとても深く、登山・周遊の行程はかなりの距離を歩くことになるので山小屋の存在は



【尾瀬沼の湖面に写る早春の逆さ燧（さかさひうち）】

欠かせません。尾瀬ヶ原の東に位置する見晴十字路周辺には数軒の山小屋があり、その北側には当支署が土地を貸付している「温泉小屋」「元湯山荘」があり、尾瀬で温泉に入れる山小屋として親しまれています。「温泉小屋」については個室対応も可能で、感染症対策にもしっかりと対応しています。また、会津駒ヶ岳の山頂から少し下った標高 2,000m の池塘のそばには「駒ノ小屋」があり、壮大な眺望が大変魅力です。

ところで皆さんは尾瀬といえば湿原の中の整備された木道を歩く絵が浮かぶと思います。その木道の素材は耐久性の高いカラマツが多く用いられており、アスファルトほどではありませんが、それなりの距離を歩くとすれば足腰へのダメージは思っていたより大きいものがあります。一方、会津駒ヶ岳から稜線を横切り大津岐（おおつまた）峠からキリンテ沢への下りは、ブナの大木をぬってフカフカの落ち葉の絨毯の上を歩く尾瀬の登山道の中でも大変気持ちの良いルートとなっているのでおすすめです。皆さんも新型コロナが落ち着きましたら山小屋へ宿泊する無理のない行程で、尾瀬をのんびりと散策されてみてはいかがでしょうか。

### 3 ふくしまグリーン復興構想への貢献

今年 3 月に東日本大震災が発生して 10 年の節目を迎えました。福島県と環境省では震災以降減少した自然公園利用者数の回復と交流人口の拡大を目的として、ふくしまグリーン復興構想を策定し本構想の更なる推進を図るため、昨年末にふくしまグリーン復興推進協議会を設置しました。これは福島県内にある 3 つの国立公園をはじめとした自然公園の自然資源を活用しさまざまな取り組みを進めていこうというもので、当南会津支署のほか会津・福島の両森林管理署もオブザーバーとして名を連ねています。

当支署では尾瀬沼の北東部に隣接する大江湿原において、湿原の代名詞でもあるニッコウキスゲをはじめとする高山植物を二ホンジカの食害から守るため、平成 26 年から「南会津尾瀬二ホンジカ対策協議会」の構成員となっている地元檜枝岐村、尾瀬保護財団のほか、環境省及び県関係者の皆さんとともにシカ柵の設置・撤去を行なっており、尾瀬国立公園の生物多様性の保全再生等に取り組んでいます。最近ではこのニッコウキスゲの植生も以前と比べてかなり回復し、ふくしまグリーン復興構想においてもおなじみの尾瀬沼と三本カラマツを背景としたビューポイントが尾瀬を代表する写真として幅広く紹介されるなど、観光客へのアピールに一役買っているところです。

このほか近年増加傾向が著しい二ホンジカ対策として、環境省と連携した捕獲エリアの拡大、また地元猟友会へくり畚の貸し出しを行うことにより捕獲への取り組みも進んでいるところです。



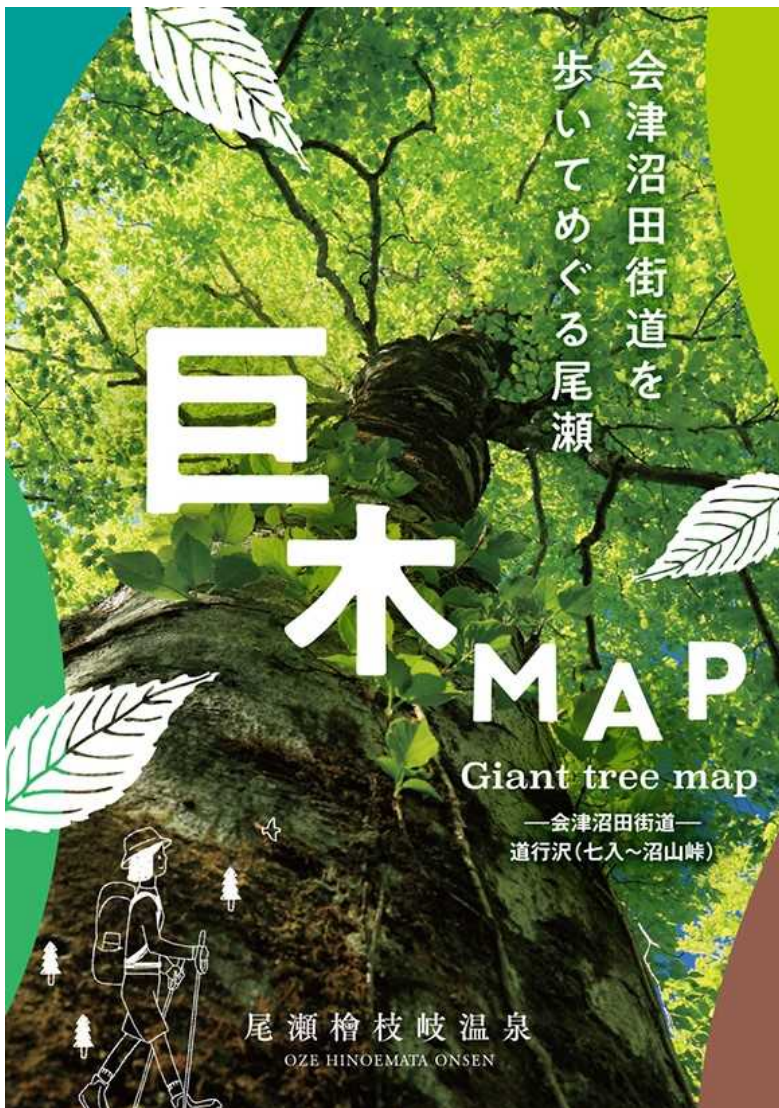
【尾瀬沼・大江湿原】

[https://fukushima-perfectview.com/view\\_points/39](https://fukushima-perfectview.com/view_points/39)

#### 4 会津沼田街道魅力向上推進プラン

福島県檜枝岐村及び隣接する群馬県片品村では、古くからの交易路として尾瀬沼を經由して会津と上州を結ぶ「会津沼田街道」を利用した魅力向上に向けた取り組みを協同で推進することとしています。

尾瀬で繋がるこの2つの村の間には現在でも車道はありませんが、江戸時代、会津檜枝岐村と上州片品村（戸倉）には番所があり、交易路として相当の往来があったようです。檜枝岐村の七入（なないり）から道行沢（みちぎざわ）沿いを通って沼山峠を越え、尾瀬沼のほとりを経て三



平峠から片品村の大清水に至るこの道を、檜枝岐村では「沼田街道」、片品村では「会津街道」と呼んできました。かつて尾瀬沼三平下付近に物資の交換場所としての交易小屋があり、主に檜枝岐村からは会津の銘酒と米、片品村からは油と塩と、物々交換が明治初期頃まで行われていたとのことでした。

この街道の福島県側の大部分が当支署管内の国有林を通ることになりますが、昨年このプランの取り組みの一環として道行沢（七入～沼山峠）の巨木MAPが作られました。上りは3時間、下りは2時間の冷温帯～亜寒帯の標高差を歩く街道沿いに自生する、胸高直径1m以上のブナ・ミズナラ・トチノキ・クロベ（ネズコ）・オオシラビソ（アオモリトドマツ）・トウヒなどの巨木38本が写真付きで地図に掲載されており、かなりマニアックな作りとなっています。

—昨年の台風被害で一部の木橋が流されてしまいましたが現在は復旧済みですので、健脚に自信のある方は七入から先人の苦勞に思いを馳せながら登るもよし、そうでない方は御池駐車場からのシャトルバスで終点の沼山峠バス停（休憩所）からの下りルートが無難かと。なお、群馬県側の巨木MAPも今後制作予定とのことですので今から楽しみにしています。



## 5 南会津町における林業成長産業化推進事業

南会津町は平成29年度林野庁補助事業の林業成長産業化地域創出モデル事業の地域指定を受けて南会津町林業成長産業化推進会議を立ち上げ、森林の育成の集約化や低コスト化による効率的な木材供給と利益の広い還元など地域構想で掲げた目標の実現に向け、各テーマについて様々な取り組みを行ってきました。これまで南会津支署としても、木材の生産性向上に向けた現地検討会を森林管理局と共に開催するなど推進会議の運営を支援してきたところです。

このモデル事業も令和3年度が5年目の最終年度を迎えることになり、地域構想プロジェクトの1つと位置付けられた木造公共施設（木の町コミュニティ館（仮称））が、令和4年4月の供用開始を目指して整備されることとなっています。



【カラマツコンテナ苗植栽研修会】

この拠点施設は「木の町」実現のために、拠点機能（森林組合事務所・NPO事務所）、情報発信（林業支援情報・就業相談窓口・住宅相談窓口）、木育・研修（講習会・木育スペース・イベント会場）、展示・販売（家具・木製品・木製玩具・アロマ）の主な4つの機能を発揮させ、林業・木材産業の「業」としての振興に資するだけでなく、来客者が森林・林業・木材への親しみを深めることでこれらを次世代に継承し、将来にわたる森林・林業を核とした南会津町の地域振興の実現に寄与するために整備するものです。



【木の町コミュニティ館（仮称）完成イメージ】

また南会津町では、森林環境譲与税を活用した町単独での森林整備をはじめとした各種事業を積極的に展開しており、まさに今後の林業成長産業化の継続の取組が期待されます。南会津支署としても地元関係者はもとより、地域の広葉樹資源の活用に着目したNPOとの情報交換などを行いながら引き続き支援していきたいと考えています。

<林業成長産業化推進会議の発足及びNPO南会津森林ネットワーク（MMN）の活動内容については、【平成30年3月】第22回のバックナンバーもご覧ください。>

## 6 おわりに

現在、南会津支署は、築56年の庁舎建て替えに伴いお隣の南会津町南郷総合支所（旧南郷村役場）2階会議室をお借りし業務を行なっていますが、この3月に新支署庁舎建築工事が無事落札・契約の運びとなり、来春には東北地方整備局管内の庁舎整備で初めてとなるCLTパネルを壁造壁として導入したW造平家450.9m<sup>2</sup>の新庁舎で新たに業務を行う予定となっています。

当地は今年の積雪深が2mを超え、6年ぶりに南会津町豪雪対策本部が設置されるほどの厳しい自然環境の山間奥地に位置していますが、この地に国の出先機関として新庁舎が建設される意義を自身あらためて認識し、隣接する南会津町南郷総合支所及び福島県山口土木事務所とも連携を密にしなが、これからも地域行政機関の一員として地域住民の皆さんの期待に応えていきたいと考えています。

今年度は新型コロナの影響で地元の山開き・あゆ祭り・新そば祭り・雪祭りなどのイベントが軒並み中止となってしまいましたが、来年度は感染症対策に配慮しながら徐々に例年通りの生活に戻ると思います。当支署職員のひとりひとりが当地に勤務したことで南会津町が第二の故郷として思えるよう、地域の方々とのつながりを意識して業務を行なってまいりますので引き続きのご支援よろしくお願いたします。



【旧山口営林署時代の面影を残す昭和40年竣工の庁舎】



【南会津支署庁舎 想定完成外観】